

早稲田大学野球部の文化研究

A study on Baseball Club of Waseda University

1K04B195-7

藤本 和典

指導教員

主査 寒川恒夫先生

副査 葛西順一先生

序章

私は、2007年11月15日、早稲田大学野球部を引退した。早稲田大学野球部に在籍した四年間は、公式戦に出ることはできなかったが、それまでの自分の野球人生では考えられないほど注目度が高い環境で野球をすることができ、成長できたと思う。私は、早稲田大学野球部、東京六大学野球連盟に本当に感謝している。そこで、早稲田大学野球部や東京六大学野球連盟についてもっと詳しく知りたいと思ったのがこの研究をすることにしたきっかけである。

野球はどのように誕生し、日本でどのように発展したのか。日本の野球界を引っ張ってきたといわれ、今も野球少年の憧れの舞台となっている、東京六大学野球連盟や早稲田大学野球部はどう日本の野球界を引っ張ってきたのか。また、これから早稲田大学野球部や東京六大学野球連盟がさらに発展するためにはどうしたらいいのかを考えたいと思う。

第一章

まず、野球が誕生してから現在のようルールが成立するまでを振り返る。

野球の原型といわれるスポーツは数多くあるが、野球の出発点はニューヨークの富裕階層のクラブである、ニッカーボッカー・ベースボール・クラブであるといわれている。当初は富裕階層が余暇を楽しむ程度の簡単なゲームであったが、アメリカ各地に普及しプロ組織が誕生すると、ベースボールは「見せる」ことを意識した、よりスリリングなルールに変化していき、現在のようルールが生まれた。

第二章

ニューヨークで生まれた野球は日本に伝わってからどう普及していったのか。

1872年に第一大学区第一中学にアメリカ人教師ホーレス・ウィルソンが野球を教えたのが、日本に最初に野球が伝わった時である。その後、アメリカから帰国した平岡氏などの日本人の功績によって野球は、学生野球を中心に発展し、日本全国に普及した。

第三章

1901年、早稲田大学野球部が安部磯雄先生の尽力によって誕生した。その二年後の1903年には初めての早慶戦が行われ人気を集め、当時最強といわれていた一高を共に倒し、早慶両校が日本の野球界のリーダーとなった。早稲田大学の日本球界初の渡米

や慶応大学の外国チーム招待によって、日本の野球は大きな発展を遂げた。

しかし、早慶戦が中止され、一時日本の野球の成長は停滞した。

第四章

東京六大学野球リーグが結成されるまでを振り返る。

1913年、明治大学野球部の提唱によって、東京六大学野球の基礎となる組織である、早・慶・明による三大学リーグが結成された。これに1917年から法政大学が加入して四大学リーグ、1921年からは立教大学が加入して五大学リーグとなり、1925年に日本の野球の始祖である東京大学が加入して、東京六大学野球リーグが結成された。

第五章

1925年に結成された東京六大学野球は、日本球界にとって大きな出来事であった早慶戦の復活もあり、日本中の注目を集めた。また、翌年に学生野球の聖地神宮球場が建設され、日本のスポーツ界で初めて天皇杯が下賜されるなど東京六大学野球はすさまじい人気と権威を得た。

しかし、日本が戦争を始めると文部省の通達によってリーグは解散させられ、日本は戦争一色に染まった。

第六章

終戦後の絶望感の中、日本を盛り上げたのは東京六大学野球で、神宮に満員の観衆を集め続けた。

しかし、プロ野球の台頭によって観客数が落ち込み始め、人気面で追い抜かれてしまった。

それでも今なお、東京六大学野球は結成当初から変わらない六大学で熱いリーグ戦を繰り広げ、スターの登場や名勝負などによって世間の注目を集め、日本の野球界ナンバーワンの伝統と、大学野球界ではナンバーワンの人気を誇っている。

結章

ここまで見てきたように、早稲田大学野球部、東京六大学野球の日本球界に果たした役割は大きかった。今もその伝統と権威は失われていないが、球界を引っ張ってきたものとして現状に満足することは許されない。六大学のOBたちによって築き上げられた伝統を継承し、人気でプロに勝てなくとも応援席を学生でいっぱいになるようにすることが課題だ。